

8月15日「終戦の日」 ～戦後73年、「戦争する国」にならないように～

府職の友 本庁ニュース

行 府職労
大 大阪府
内 線3746

昨年、NHKが全国の18歳と19歳を対象に行った世論調査で、日本が終戦を迎えた日について、14%が「知らない」と答えたことに驚きましたが、日本での常識としては、終戦は8月15日と答えると思えます。

周辺国では9月

しかし、アメリカやロシア(旧ソ連)では、対日戦勝利は9月となっている。中国は9月3日を「日本の侵略に対する中国人民の抗戦勝利日」としています。このように日本と敵対国であった周辺国では、終戦の日は実際には日本人の常識とは違っています。

では、日本人が終戦の日とする8月15日は何なのだろうか。天皇がポツダム宣言の受諾を「玉音放送」という形で、戦闘状態をいったん休止

する「休戦宣言」をした日だといえます。

実際に、日本がポツダム宣言を受諾したのは8月14日であり、全世界に公表されていましたが、それを知らなかったのはごく一部を除く日本人だけだったようです。

事実、アメリカでは8月14日に日本が降伏することが報道されており、その日にトルーマン大統領はポツダム宣言の内容を国民に説明し、日本がそれを受け入れたことを告げ、対日戦勝記念日は9月2日の降伏文書調印を見届けた上で布告するとしていました。

調印式は、東京湾上に浮かぶ米戦艦ミズーリ号で行われ、その状況はラジオの実況中継で全世界に流されました。トルーマン大統領は、ラジオの実況中継後、全国民向けのラジオ放送で演説し、その中で9月2日を正式に対日戦勝記念日とし、第二次世界大戦を勝利で終えたことを宣言したので、アメリカの第二次世界大戦の終了は1945年9月2日ということになっている

そうです。

戦争はイヤだ

「終戦の日」には、メディアでもいろいろの特集が組まれ、第二次世界大戦のことが取り上げられますが、戦後73年目の夏、あらためて「戦争だけはイヤだ」と思われる方も多いと思います。

1945年8月15日に敗戦を迎えた「15年戦争」は、多くの命を奪いました。その悲しみの上に、「二度と戦争しない」と誓ったのが日本国憲法だと思えます。この平和憲法があったから、戦後ずっと、日本は「戦争しない国」を続けてきたのではないのでしょうか。

現代の戦争は、核戦争に象徴されるように、非戦闘員を無差別に大量に殺戮します。だからこそ、戦争を起こさな

いことが一番大切です。そのため、「戦争違法化」ルールがつくられてきました。戦力の不保持、国の交戦権の否認など、「戦争違法化」の最先端をいくのが日本国憲法9条です。

昨年5月に安倍首相は、「新たに憲法9条に自衛隊の存在を書きこむ」「2020年に新憲法施行をめざす」と述べ、改憲への動きが急速に強まっています。

戦後70年以上にわたって、日本が海外で戦争をしてこなかった大きな力は憲法9条の存在と国民の粘り強い運動だったと思います。9条を変えたり、新たな文言を付け加えたりする必要は全くありません。日本がふたたび海外で「戦争する国」になるのは誰でもNOだと思っっているのではないのでしょうか。

水曜日は
一残業一
自分の健康と家族のために
定時に帰りましょう!